號六十八百三千二萬二第 擊沈破累計 五五元一一六五八七 縣課長級以下稀有 戦體制を確立 た 艦上機勢力ま、めてこの神機を同胞の血潮の中に摑まなけれた。 大小暦には、横づ、一命中するとしても、既に一千機、李超型といるに対け、難、える特攻機。を失つてゐるわけである、あと一世しめると戦が爆、押しで吸船區際館の神殿を営室に指述、甚大な補給に努力を再び、戦術爆、押しで吸船區際館の神殿を営室に指述、甚大な補給に努力を再び、戦術爆、押しで吸船區際館の神殿を営室に指述、甚大な補給に努力を再び、戦術爆、押しで吸船區際館の神殿を営室に指述、甚大な補給に努力を開かれたといる。、一般を惜んが、一般勢力ま、めてこの神機を見かれたととになる、一瞬を惜んが、一般勢力ま、めてこの神機を見かれたととになる、一瞬を惜んが、一般を増んである。か然の作機と授入十五、十一倍に戦争に対してあるが、わが特攻機が、数一艦に三ない自動に十二分の協・でより、一般を増んである。か然の音楽を開いた。 航空力の源泉を に十二分の協 でこの特攻機の 町山田貞太郎安課長へ 記録 橋爪富吉 田署長へ 務官 佐々木佳之 桑名署長へ 進部隊を邀撃 中村松次郎 戰闘激化 し得る、かくて沖 任警部(奏任) 警防課長へ 任地方警視、 任警部(憲任)上野署長 警察練習所長へ ヤスセン地區の敵攻勢と呼應し 矢代勝彌 中條黨 総決職さわが際攻除のmの整制により家 意の容易ならぬものを見出 特高課へ 護國同志會 經營所公局 樋口鐵男 水谷賢一 藤下和雄 **薬港會議を前にしてガ翁聲明** 解放が平和の前提 在建 字治山田警部補、緊須秀、動員 等治明田警部補、緊須秀、動員 等治明日警部補、緊須秀、動員 等治明日警部補、緊須秀、動員 等治明同、藝谷正吉、動 養寒、松阪へ▼松阪同、海 養寒、松阪へ▼松阪同、海 養寒、香港、等治 大口 養務順同縣谷 養務順同縣谷 養務順同縣谷 養務順同縣谷 養務順同縣谷 任屬兼警部、松阪署へ 勝三 荒鷲が猛攻 同に屈田手腕をとることとな 鳥羽動員署長へ 本可能だ、以上の監からして「索路北京西郊飛行傷に動着したで民主主要を実現することは」北各地を28纂のため十六日午後で民主主要を実現することは、北各地を28纂のため十六日午後や5に努力する必要がある、「國民政府主席代理院公順氏は華や5に努力する必要がある。 縣、地方事務所關係 動員署關係 人々略歴 吉田又十郎 佐久間北年宴所長 阪南 北 和十一年一月縣農林主事補、 工十三年三月縣農林主事補、 大 和十一年一月縣農林主事補、 北各地を巡察のため十六日午後 華北を視察 日報同盟] 國同志會の結 市川經保課長。鈴鷹郡野市川經保課長、四十五歲、大正十二年五月經濟集。昭和十二二年五月營職、精霜觀長、名張年五月營職、大正十九年七月營職、被阪署長、十九年七月營職、被阪署長、十九年七月營職、 長、十九年一月同總務便長 長、十九年一月同總務便長 治馬田田旻、 上月三重 地方 等於原納齊課 七年 上月三重 地方 等於新齊課 年一月巡査、昭和十二年十月、60 慶都が付職町かします 村田号、四十四歳、大正十三 」とかるは「成へ非命三難」」 十九年五月素任 一志郎中郷 零視の動語中「政へ裴命三難」」 十九年五月素任 仲村事務官 北平護郡尾愛 び鴽組織はわが顕唯一の政事結 四十二歳、大正十四年四月農
四十二歳、大正十四年四月農
旅務課をへて十九年一月人事
「既務課をへて十九年一月人事 所出身、四十四畿、大正十一 一月縣縣、十七年七月度会地 一月縣縣、十七年七月度会地 1月振興課、(地方課) 勤務、 会の本質が真の同志的 潜水技術員養成所 **斯瑟人 大日本潜水協**高 り次第總見於行ふ後定である 日本上野署長 W南部銀 月醫部、天ケ蟹、一身田各選 月醫部、天ケ蟹、一身田各選 長、十八年三月名張醫長 東郷外相 地方長官の官層智能 野し既任後最初の接見を行ふと 東郷外相は在京中の各図上 町の外相官既にスターマーへ イツンティーモン(ピルマンウ ととなり、十八日午後三時三年 製鉱を仰ぎ期職、平路、清水 の野木育相以下各相、村節法 の野木育相以下各相、村節法 所長官、襲尾内務大官出席、 で行政機體特別第大條に規定 が行政機體特別第大條に規定 見した、なほその他の外交に 公人私人 ) 同上 (新名張醫察署長

長、同)同上 (知識安認知方專

大正十五年二

一氏(鳥羽警察署到於

の移住者續

5の、烈しい意氣で わたす屋東尼 地の配面を

とができまし

ん。その婦人たち 若い光に燃え

あることを試れのひとみは、

に、薬き上げるのです。それがいの味の中

只今第四十四回募集中

貯運保 蓄用に 有 に 有 至 名 利 全 全

期間三ヶ年・一口五百圓

昭和二十年四月十九日

一面縣員弁郡立田村

白石工業株式會社

| 手取利廻ー四分四厘

物資漁り故

か

奉公に死力傾倒

聖慮畏み起ち上る戰災者

沖繩决戰場

中の三中學生の純情

著に難しそれぞ
その他闘操代表者最後の会職を
和用工作は職め
日から市役所で展、市警察、警

町に通ずる(阿竹の渡舟場)に

は翌田川下流の黒河町から田尻。

渡場に木橋を由市で

勢田川阿竹の写治山

一等長(大三村)廿二日午

の背核はないのでたく既設に備

してもよいこととなり際で告示

調要命令書が渡一開き建造物除去方針を決定、五

では市と響 同月二十日宗子と同時に防宏道 士の通勤などの事度に入るでは市と響 同月二十日宗子と同時に防宏道 士の通勤などの態後、『葉酸』所では市と響 同月二十日宗子と同時に防宏道 士の通勤などの態後、『葉酸』

**菌床も出來上る** 

一円八十三級)

機いた、損害四十円程度 大野木地内の農長田著右領門さ 日午後三時ごろ田火、二畝歩を 橋いた、損害四十円程度

から除却作業

松阪の建物疎開準備するむ

次縣下で施設

に費すること多く野菜の

換させる

元の襁縄地區各町はもとより二

海地風各町はもとより二 ・ 盤こ 一般の種語も確保しいよいよ数感になったが竣工の略は地 ・ 盤の種語も確保しいよいよ数感

自結百足すべく高騒機等組合その 東面瓜などの基語端突苗を市内で である。 に確布する茄子、胡瓜、トヤト

の時間「食糧増産」山崎延吉 の時間「食糧増産」山崎延吉

、二十万本の栽培を

四日市市経済課では隣組書献用

蔬菜の自家栽培 四日市市が力癌

の軍大化に難處し早急這

言戒警報で送電 **関利になるラジオ情報の登線** 

· 交換事業在行

日市市では本年度國民職力檢查 四日市體力檢查四 い二十七日の二日に 腿を期待されてゐる

合長報告通り原案を承認、役員 役員を改選 松阪信用組合 松阪信 政震の結果左の諸氏選任し おいます。

一志郡で蘇脚的一巻も新たに八十七葉を帰設、う一

で第二次分六十基は十二月ごろ

上野地方で 上野戦 (輔、△常務理事高奥多) 松三郎 根油は昨年の八倍に営る。

はこのほど決定 した、それによ

小方五百俵、新は四側増の百四 十万五百俵、新は四側増の百四 十万五百俵、新は四側増の百四 十八万六千二百束でう種別に開

なお間を翻らうとす。魂のわら と作業との政争を思ふて、動量 杉の雕奏をはれた つたの です。 だからご 一次の人々の成功と製錬をいのつ なかつた。 しかしそそ、 長 州 で しかしそ 動息杉の雄奏を想ひ浮べずにあられた、といる碧東尼のさとした、 中吟してゐるのだ。少しでも早 入百割で 乾耀

春風

施長春臺

りばめてある。

のびするやうな、だけで、階級

さきがけ

はんたうに、

と、壁ちしり

を次から次へ

土を運び、車をひくばかりでは、土を運び、車をひくばかりでは、それぞれの職域があるられた、それぞれの職域があるられた、それぞれの職域があるとして関係を対しては、 5上つて、天朝 さまの、倒ため にゐたいやうな、焦躁に謂られて、神を 進んで行く。いまで 御鹿をかくげて、日本の母のま く東行脈に戻って、その枕ると 「われわれる、イザとなれば立 深く心をうだれる所女であつ るのであつた。 それほど日本の國は、新ら 村の

珍しいものではなくなつてあ。またしても智慧にかいやく卑は、その無點ですら、別だんに もりにつく時がくるのです。 一隻の機能が、けむりを場けらな無船がいく腹も、日の丸の 「いまにこらんなさい。あのや

十九日 文化映画動く三二品でシガハタラク動物

限につき高神星警撃長は次のや

れが配勝東線の輸送能力に足験、長島間の頭客が多く

人知敏、立誠、育生、人、八百貫人夏寒柑一人

作普杉高たれわ現に海上!如突 東奔西走する志士の辛酸からて明治維新の黎明は 上海に揚る 王李月阪 形東 丹腦寵妻 之三 鳳華介郎 陸軍豫科士官學校 188

をもつものに限つて使用しても 二の々堂 立本 十九日 100

十九日 より 陸軍豫科士官學校 サ

佐州電力の消費禁止租目のです 一部の使用復活 **楽電力の消費禁止種目の** 

**学月に十颗台を吸へてをりタイ** 

が、屋外に置く時は確鍵を忘れ れに捨てられてあるのもあった

映起してゐる

日全会員が腹十輛の荷馬車を

十九日日本報道

支部決算、松根郡会闘場で開

民を推薦、このほど副可を得て就任

でに既〇〇トンの木材を一掃

淮 新 世 一、 水 人 滑 人 滑 四 松 居 阪 世<sup>縣</sup>海 端東では 東京派員・答様・連続員・ では、東京派員・答様・連続員・ では、東京派員・ では、東京派員 軍 I

しい世界へと、歩金近づいてお 敢勝必

七候二付生前ノ熟知諸彦二對シ此段議門月九日年逝仕り同十一日桑名市二於四月九日年逝仕り同十一日桑名市二於當會社監查役水井邦二郎政去ル

十九日日本器道映書 宮本武 藏

万三千俵▲家城町Ⅱ 世生

日本報道映畫「哪門花

市界 世

館界世二第 國

館上 樂

片岡千惠藏・阪東妻三郎

國民勤勞動員署

高へ申込マレタシ 一名昭著の最密リノ 國民運等の 一名昭著の最密リノ 國民運等の 二十三日〇九 二十五日〇九 二十四日〇九

理用の電機器は十七日から使用